

家族の一員のように。

ご葬儀の意義は、故人様だけでなくご家族様のためにもあります。にもかかわらず、深い悲しみの中で忙しく準備を進めなければいけません。それを家族の一員のように、私たちが引き受けることができたなら。

そんな想いで、たかはし葬儀社へ勤めて6年。現在は主に葬儀の発注準備などの事務や総務、お客様対応、会館が忙しいときにはサポートに入ったりもしています。

以前は美容師を17年務めていました。担当していたお子様が成長し、年を重ね、いずれはパートナーと共にご来店いただきたい。そんな風に、お客様の一生に携わるつもりだったんです。

でも今向き合っているのは、お客様の「最期」。たかはし葬儀社で働こうと決めたのは、会社を継いで代表取締役となった夫を支え、力になりたいと考えたからでした。

この会社の魅力は、社員全員が親身になってお客様のご要望を伺い、それを形にできるところ。課を横断して密なコミュニケーションを取りやすく、役職者もスピード感をもって決裁を下してくれるんです。

また、会社全体がお祭りや子ども食堂さんへのボランティア、町のイベントなどの地域活動に積極的なので、お客様の声を拾いやすいとも感じています。

前職で大切にしてきたのは、お客様と社員のちょっとした表情や変化、サインを見逃さないことです。

ご葬儀を前にお客様は、その見た目以上にショックを受けていたりもします。話を受け止めたりするだけでも、ご葬儀に抱くイメージや次に取るアクションは変わらると思うんです。

私の今の目標は、社員や関わる業者様など自分以外のすべての人を「お客様」と捉えつつも、家族のような距離で関わること。そして、会社の資本であるスタッフが気持ちよく働けるよう、心がけることです。

地域のみならずからだけでなく、社員からも「たかはし葬儀社なら間違いない、良い会社だ」と思っていただけのように。それが、お客様に心から寄り添い、一度きりの葬儀を大切に施行することに繋がっていくはずです。



The Philosophy of TAKAHASHI SOUGISHA

あなたと共に生きる

Kayoko Takahashi